

# 令和7年度 総合的な学習の時間全体計画 江戸川区立上一色中学校

校長名 飯田 剛

名称: 上中タイム

<b>学校の教育目標</b>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・自ら学ぶ生徒</li> <li>・心身を鍛える生徒</li> <li>・社会をつくる生徒</li> </ul>
----------------	---

## 国が示す総合的な学習の時間の目標

探究的な見方・考え方を働かせ、横断的・総合的な学習を行うことを通して、よりよく課題を解決し、自己の生き方を考えていくための資質・能力を次のとおり育成することを目指す。

(1) 探究的な学習の課程において、課題の解決に必要な知識及び技能を身に付け、課題に関わる概念を形成し、探究的な学習のよさを理解するようにする。

(2) 実社会や実生活の中から問いを見だし、自分で課題を立て、情報を集め、整理・分析して、まとめ・表現することができるようにする。

(3) 探究的な学習に主体的・協働的に取り組むとともに、互いのよさを生かしながら、積極的に社会に参画しようとする態度を養う。

## 学校の総合的な学習の時間の目標

- 1 「江戸川に生まれ、江戸川で育ち、世界で生きる」というテーマに基づき、各学年の発達段階に応じて、生きる力を育成する。
- 2 学び方や、ものの考え方を身に付け、問題解決や探求活動を通し、自己の生き方を考えることができる人間を育成する。
- 3 自己の生き方を考えることができるようにする。
- 4 自ら課題を見つけ、自ら学び、自ら考え、主体的に判断し、よりよく問題を解決するようにする。

## 育てようとする資質や能力及び態度

知識及び技能		
第1学年	第2学年	第3学年
目的に応じて手段を選択し、情報を収集する。	必要な情報を収集した上で、それを多角的に分析する。	課題解決を目指して情報収集をして、事象を比較したり、因果関係を推測する。
思考力、判断力、表現力等		
第1学年	第2学年	第3学年
目標に向けて解決するための計画を立てる。また、課題解決するための手立てを考え、それを発表する。	課題解決のための手立てを計画的に行い、それに対しての結果を考察する。	目標から課題解決までのプロセスを自分なりに考察しまとめる。また、それを自分なりの方法で発表できる。
学びに向かう力、人間性等		
第1学年	第2学年	第3学年
自分の意見を相手に正確に伝えると同時に、異なる意見や他者の考え方を受け入れ尊重する。	自分の意見を相手に正確に伝えると同時に、異なる意見や他者の考え方を受け入れ尊重する。	自分の意見を相手に正確に伝えると同時に、異なる意見や他者の考え方を受け入れ尊重する。
〈 読書力に関すること 〉		
第1学年	第2学年	第3学年
本で調べる手法を身に付ける。	本で調べるとともに、内容を深く読み取る力を身に付ける。	内容を読みまとめ考察する力を磨く。

内容	学習対象	学習事項
第1学年	<ul style="list-style-type: none"> <li>・郷里、江戸川に愛着をもつ</li> <li>・地域の自然環境や伝統文化、環境問題</li> <li>・自己の生き方</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・江戸川区の歴史、文化、産業、環境問題</li> <li>・自己の将来</li> </ul>
第2学年	<ul style="list-style-type: none"> <li>・江戸川で生きる人々から学ぶ</li> <li>・実体験を通しての社会の理解</li> <li>・職場体験を通して、働くことの意義</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・地理、歴史、文化等の学習と様々な人の暮らし</li> <li>・人との交流とのぞましい人間関係</li> <li>・社会人としてのルールやマナー</li> </ul>
第3学年	<ul style="list-style-type: none"> <li>・卒業研究</li> <li>・日本の伝統文化の理解とその背景</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・自己のテーマの沿った研究</li> <li>・日本の文化遺産や史跡の見学、鑑賞を通しての生き方・物の見方考え方と文化創造の歩み</li> </ul>

学習活動	指導方法	指導体制	学習の評価
<p>〈テーマ〉</p> <p>1年生・・・地域に目を向け、江戸川に愛着をもつ。</p> <p>2年生・・・職業体験をし、社会に目を向ける。</p> <p>3年生・・・個別研究による卒業研究を行う。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・個に応じた指導の工夫</li> <li>・教科との関連的な指導の工夫</li> <li>・言語活動による体験の意味の自覚化</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・担任及び学年主任を中心として、学年全員での指導体制</li> <li>・担任以外の教職員による支援体制の樹立</li> <li>・実践記録の保管と次年度への引き継ぎ</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・指導と評価の一体化の充実・観点別学習状況を把握するための評価基準の設定</li> <li>・学期末、学年末における指導計画の評価</li> </ul>